

平成 26 年度 第 6 回 市長と語ろう！タウンミーティング 議事録

開催日時 平成 26 年 7 月 13 日（日） 午前 10 時～11 時 30 分

開催場所 笠間市役所 大会議室

参加者 市民 12 人

《フリートーク（意見交換）》

- 1 地域クラウド運営事業について
- 2 浄化水槽の汲み取り業者について
- 3 国道沿いの歩道の草について
- 4 若い女性の市外への転出について
- 5 法律改正による老人ホームの入所基準の変更について
- 6 入札・応札について
- 7 デマンドタクシーへの AED の設置について
- 8 稲田中学校の入口の木について
- 9 特定行政庁について
- 10 複式簿記の導入について
- 11 小学校の統合に伴うスクールバスの料金について
- 12 道路の補修について
- 13 工事に係る市役所内の情報交換について
- 14 友部地区の活性化について
- 15 友部地区地域交流センターについて
- 16 収納対策について
- 17 職員の人事交流について
- 18 水戸線の活性化について

《内容》

1 地域クラウド運営事業について

【意見等】

「わかりやすいかさまの予算」の 11 ページに「地域クラウド運営事業」という新規の事業がある。今、国の事業で佐賀県武雄市など 6 市町ぐらいでクラウド事業に関する社会実験を行っていると思うが、今後、介護の他にクラウド事業で考えていることがあればどのようなものがあるかお聞きしたい。

また、医師会が県内の 40 医療機関で薬の重複や投与についての情報ネットワークを構築して、医療費の削減につなげていくという記事が載っていたが、市立病院は参加するのか。医療費の削減は生活保護費の医療扶助などの削減に間接的には影響してくると思う。

【回答】

笠間市では、一昨年から総務省のモデル事業として、地域クラウド運営事業に取り組んでいます。「介護支援体制を強化するため」とあるように、医療機関、介護事業所、行政、薬局、消防など介護、医療に関する機関がそれぞれに持っている情報を共有し、それを活かしていこうという事業です。今年 10 月から本格運用に入っていく予定です。今年度の地域クラウド運営事業は笠間市のみですが、本来であれば、県央地区や茨城県全体などもっと広いエリアで運用していくのが理想だと思っているので、近隣の自治体にも投げかけをしています。

医師会で構築しているクラウド事業については、国の地域医療再生基金を使い、病院間の連携をしていこうという情報ネットワークです。当然、市立病院は病院なので、その連携の

中に組み込まれていくべきだろうと思います。医療機関間の情報共有を図って、検査の重複の有無や患者データの共有などを図っていくことが望ましいと思います。この医師会のネットワークには県立中央病院などの大きな医療機関も入ってきているので、救急以外の亜急性期を担う市立病院についても、一緒に連携していく考えです。

2 浄化槽の汲み取り業者について

【意見等】

浄化槽の汲み取り業者を1社増やしてもらえないか。電話では3~4万円できると言われていたが、実際には汲み取りの他に割増料金がかかり、実質6万円ぐらいかかった。他の人にも話を聞いたところ、その時々で料金が違ったりするという話も聞く。近隣の町でも以前は1社だけで高い請求があったりしたようだが、業者が1社増えたことで、これまでばらばらだった料金が安定して安くなっているようだ。

【回答】

以前、笠間地区では、2社体制でしたが、4、5年前に1社が廃業しました。その際に、今後も2社体制でいくかどうかについて議論しましたが、下水道の普及や笠間地区の人口減少などを鑑み、1社体制とすることにし、現在に至っています。

料金については、1社体制になってからしばらくして、料金がわかりにくく、きちんとした説明がないなどのご意見が来るようになり、市としてはその都度指導してきました。また、料金表を作成して回覧で周知したところでは、

3 国道沿いの歩道の草について

【意見等】

国道355号線の南小泉から下加賀田地内の宍戸バイパスにかけての歩道の草が伸びていて、側溝のふたが見えない状態になっている。昨日足を運んだところ、道路の西側の500~600m区間は草が刈られていたが、東側も刈っていただけるとありがたい。また、交差する県道稲田友部線のあたりも国道の西側の歩道の草が伸びている。国道の歩道はいつでも安心して通れるようにしてほしい。

【回答】

国道355号の草刈りについては、県に改めて要望します。草刈りなどの維持管理は今後の地域の大きな課題になってきていると思っています。近年は地域で草刈りをやってもらえる人が減ってきており、特に県道や市道でその傾向が強くなっています。国道は交通量も多く危険なので業者が行うべきだと思いますが、今後、維持管理費の予算のウエイトを高めたいと思います。また、福原IC周辺も草がかなり茂っています。観光のまちでもあるので、特にIC周辺や目につくところについては、早期にやっていただけるようしっかりと県に要望していきたいと思っています。

4 若い女性の市外への転出について

【意見等】

人口は全国的に減っているが、新聞で、20~30代の若い女性が学校を卒業してからその土地を離れる「離住率」について掲載されており、笠間市は県内でも上位の方で50%を越えていた。茨城県全体で減っていないという市町村はなかったが、一番少ないのがつくば市で確か2%台と笠間市に比べるとずっと少ない。転出する女性はどこに行っているのか。都会なのか、近隣の市町村なのか、わかれば教えてほしい。また、女性の転出を引き止めるには、どうしたらよいか聞かせてもらいたい。

【回答】

新聞の記事では、県内の44自治体のうちの半分ぐらいは、将来女性の人口が50%以上減

っているとのことでした。笠間は51%ぐらいだったと思います。男女の区別はできていませんが、転出する女性は、高校を卒業してから20代後半の方が多く、県外や市外に出ています。市外へは、水戸や石岡、ひたちなかに転出する傾向があります。県外へは、首都圏に流れており、大学に行って戻ってこないといった傾向があります。ただし、若干転出者の方が多いですが、転出する数と同じくらい、笠間に転入してきている人もいます。

子育てのしやすさと教育が充実しているところに移り住みたいという傾向が若い人にはあると思うので、幼小中の教育や子育て支援については、今後も積極的に推進していく必要があると考えています。笠間に働く場がないから転出してしまうということではなく、職場は市内ではなくても、通勤時間が30分圏内であれば構わないといった傾向もあります。もちろん、市内に働く場があった方がいいとは思いますが、企業誘致も必要だと考えています。

5 法律改正による特別養護老人ホームの入所基準の変更について

【意見等】

介護認定が「要支援」の方が、法律の改正で特別養護老人ホームには入れなくなるのかとか、退所させられるのかといった不安を持っている人がいる。その方には、新しい市立病院ができれば、在宅訪問などをやっていただけるのではないかと話してみたが、市では、何か取り組んでいくことがあるのか。

【回答】

現在、要介護1と2の方の訪問介護とデイサービスは、介護保険で各事業者が行っていますが、笠間市については、平成29年度から市の事業に移行していくこととなります。特別養護老人ホームでは、要介護3以上の方に入所が限定されていくこととなります。ただし、現在入所している方や、要介護3でなくても重度の認知症の方は、引き続き入所できます。今の入所者を無理やり追い出すといったことはないと思いますが、入所や退所に関しては、利用者と施設との契約になるので、各施設に説明責任があると思います。市からも法律や制度の変更を周知するよう、投げかけてみます。

6 入札・応札について

【意見等】

本所は、入札・応札に関連する部署があるが、出先機関には、その担当部署がないと思う。入札に対する考え方として、中立的立場で公平に平等に法に則って公正な判断をするのが入札制度だと考えているが、専門的な知識のある人がおらず、本所と出先機関で違いが出てしまうことがあるのではないか。入札の際に本所の担当者が出先に出向き、立ち会うなどはできないのか。

【回答】

入札に関しては、公平、平等、法に基づいて行うのは当然のことであり、すべての部署で共通認識を持ってやっておりますので、今後もそのようにしていきたいと思っています。

7 デマンドタクシーへのAEDの設置について

【意見等】

デマンドタクシーにはAEDが設置されていない。AEDを設置し、ドライバーにAEDの講習を受けさせるのはどうか。

【回答】

AEDを設置するかどうかに関しては、過去にデマンドタクシーに乗っている際にAEDが必要になったことがあるのかどうか、そうしたデータを見ながら検討課題とさせていただきます。

8 稲田中学校の入口の木について

【意見等】

稲田中学校は拠点避難所になっているが、入口に木が茂っていて暗い。街灯もないので、木を伐採して入口をわかりやすくできないか。

【回答】

稲田中の入口の付近 50～60m は木が生い茂り暗くなっているところがあります。拠点避難所としてはもちろんのこと、通学路の支障にならないように、教育委員会を通じて、学校に話していきたいと思います。

9 特定行政庁について

【意見等】

土地を分譲する際には、道路を作り、位置指定道路などの道路に認定してもらえないと家が建てられない。笠間市は建築主事がおらず、特定行政庁ではないので、この認定をしてもらうのに県庁へ行かないといけない。一方で、笠間市よりも人口が少ない高萩市では、特定行政庁になっている。このようなことを行いサービスのレベルを上げることも必要ではないかと思う。

【回答】

水戸市やつくば市なども特定行政庁になっており、高萩市は人口規模は小さいけれど、以前から取り組んできたのだらうと思います。今、地方分権で県から市に権限移譲されていますが、笠間市は県の権限移譲可能な法令のうちの 85～86%を受けており、これは県内 1 位です。特定行政庁の認定に関しては、今後の検討課題とさせていただきます。

10 複式簿記の導入について

【意見等】

会社の経理はみんな複式簿記である。東京都などは複式簿記だが、ほとんどの自治体は導入していない。笠間市で導入を検討したことはあるのか。

【回答】

公会計制度ということで総務省から、複式簿記を導入するようにとの話があり、平成 20 年から複式簿記を基準とする考え方で財政の分析などを行い、平成 24 年度の決算からそれに基づいた財務諸表などを作成しています。ただ、一般の会社のように、収入、支出の度に複式で経理を行っているわけではなく、決算を作成する段階で伝票を複式のような形に分類しています。

11 小学校の統合に伴うスクールバスの料金について

【意見等】

小学校が合併するが、バス料金はどうなるのか。自己負担しなければならないのか、それとも市が負担してくれるのか。

【回答】

佐城小、箱田小、東小が来年の 4 月に笠間小に統合されます。バス料金に関しては、まだ決定はしていませんが、できるだけ保護者の皆様に負担がかからないようにしたいと思います。ただし、全員が無料ということではなく、一定の負担はしていただくことにはなります。1 つの案として、教育委員会で 4,000 円との案を出しましたが、子どもが 3 人いる家庭では負担となります。そうしたことも踏まえ、最終決定に向けて協議しているところです。

12 道路の補修について

【意見等】

県道大洗友部線は、友部 IC で高速を降りて救急車が県立中央病院に行く道になるが、コメリの斜め前あたりに水路が南北に走っており、窪みができていて、救急車がいつもブレーキを踏んで減速して通っている。救急車が中央病院まで安心して患者を運べるように補修してもらえないか。

【回答】

現場を確認して、早急に県に要望を出します。

13 工事に関する市役所内の情報交換について

【意見等】

菅工事に関しては、建設課や農政課、水道課などが関わると思うが、それらの課の間で情報交換をして効率的に工事をしているのか。また、役所内に施工管理の技師などはいらぬのか。

【回答】

道路工事と水道工事は同じタイミングで行うなど、内部の調整は年度計画の中でしっかりとやっています。施工管理の技師は、市役所にはいません。現段階では資格を取らせたり、募集する必要性は感じていません。建物の耐震化、公共施設の長寿化などの課題は多いので、専門性を有した職員として、1級建築士はここ数年で3人採用しました。

14 友部地区の活性化について

【意見等】

東平や市立病院のあたりはにぎやかだが、八雲一丁目、二丁目や市役所周辺が最近さびれてきている。一人暮らしの人が亡くなると、更地か駐車場か空き家になっているところが多い。市立病院も北口の方に移転すると聞いている。車は通るが人通りがなく、子どももあまり通らないので、なんとかならないかと思う。

また、笠間から出て行く若者が多いが、それは大学とか短大がないからではないか。以前畜産試験場跡地に早稲田大学のキャンパスができるとか、市内にイオンができるといった話があったが、どうなったのか。

【回答】

友部地区の中でも、おっしゃるとおり空き家が増えているところもあるし、人通りが少ないようなところもありますが、今のところ、そのような地区の整備に関して、特別な計画はありません。管理されていない空き家に関しては、空き家条例に基づき指導をしています。また、空き家バンクを創設して、家を探している人の仲介をしており、これまでに7、8件契約が成立しています。市では、駅を中心としたまちづくりを進めており、友部駅の北側には市立病院や老人ホームの計画がありますが、南側には交流センターを作ることで、南北のバランスは取れているのではないかと考えています。中心市街地を活性化させるには、やはり商店街の取組みも必要になってくると思いますが、行政から投げかけをしますが、店主が商売としてどのように展開させていくのかを考えてやっていくことも必要だと思います。

笠間市には大学・短大はありませんが、簡単に誘致できるものではありません。それよりも、幼稚園・小中学校の教育を充実させ、笠間市の教育レベルは高いということを示すことが大切だと思います。今年から英語教育も一部始まり、笠間市独自に先生を増やしている学校もあります。ただ短期間で成果が出るものでもないの、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

イオンに関しては、4、5年前に友部ジャンクション周辺の工業団地に進出するという話があり、契約をしましたが、1年後に県に補償金を支払って撤退しました。なお、早稲田大学の医学部を誘致する話ですが、市民の中でも誘致に関する署名を集められた方がおり、また

県議会でも声が上がり、新聞に載りました。今にも来るようにとらえた方が多かったが、現状は何一つ決定していません。そもそも早稲田大学が医学部を作るという発想自体があるかもわからない状況です。

また、畜産試験場跡地には、土地を利活用するにも排水設備がありません。企業、学校、病院など、何であっても誘致するには排水整備が必要です。今、県で平成 25 年～27 年の 3 年をかけて矢野下から整備をしています。畜産試験場跡地は県の土地ですので、県と協議しながら、地元の雇用や税収にプラスになる施設の誘致を始めているところです。

15 友部地区地域交流センターについて

【意見等】

計画中の地域交流センターに関して、「まちのひろば」を「防災ひろばとして利用」とあるが、駅の南口は防火水槽が少ないので、駐車場でもまちのひろばでも、最低でも 40 m²ぐらいの防火水槽を設置してもらえればと思う。

【回答】

地域交流センターには、100 トンの防火水槽を設置する予定です。

16 収納対策について

【意見等】

税金の催促の状況はどうか。差し押さえをしても、すべて処分はできない状態だと思うがその対策はどのようにやろうとしているのか。また、口座振替での収納については、残高がない人は延滞しがちなのではないか。残高を入れるように通知すれば、収納が上がると思うが。また、給与の差し押さえに関して、トラブルが出やすいと思うがどうか。

【回答】

税収入は大きな財源のひとつです。納税は国民の義務であるので、この義務をしっかりと果たしていただきたいと思います。笠間市の徴収率は、県内の自治体と比較すると低いところに位置しています。人員を増やしたり、難しいものは県の債権管理機構に委託したり、全部処分できるわけではないですが差し押さえをしたりしています。「給与や預金を差し押さえます」と通知を出すと収める方もいるので、今後もしっかりと対策をしていきます。収納率は低いですが、対前年比では伸びています。給与については、全額差し押さえるわけではなく、最低限の生活ができるぐらいの額は残します。もちろん、手間もかかりますしトラブルにもなりますが、それでも徴収率を上げるため一生懸命取り組んでおります。

17 職員の人事交流について

【意見等】

笠間市では、職員を他の市に派遣することはやっているのか。つくば市などは対応が早く、レベルが高く感じる。同じ仕事をしている市に派遣したほうが良いと思う。

【回答】

市単位での人事交流はやっていません。他の自治体もないと思います。市でやっているのは、県との人事交流と国からも職員を受け入れています。今年の 6 月からは外国人研修生を受け入れています。昨年までは、JR に職員を派遣していました。市同士でやるかどうかは別として、研修の必要性は認識しているので、行政関係の研修はしっかりとやっていきたいと思えます。

18 水戸線の活性化について

【意見等】

先日、「知事と語ろう」で水戸線と東北新幹線を接合し、下館や友部に快速を止まらせて茨

城空港まで動線をつなぐという話があった。今すぐには難しい話だが、知事は市から要望が上がってこないと動くのは難しいと言っていた。市長は水戸との合併はしないと言っているが、県の中央に位置する友部地区が北関東と東京圏へ向けての扇の要として重要な存在感を示すという意志を持って活動をしていってほしい。

【回答】

水戸線の乗降客を増やすのは、笠間市単独では難しいですが、友部にスーパーひたちが止まるぐらいの取組みは必要だと思います。

笠間は合併 9 年目で、今は笠間をどう作っていくかを掲げて取り組んでいます。水戸市との合併は考えていませんが、広域行政は必要です。水戸市を含め周辺の 7 自治体の首長も広域行政は必要だという判断があり、消防の広域行政についての勉強会をスタートすることになりました。県央地域が一つの行政としてしっかりと取り組んでいくことがお互いのメリットになると思っています。